

光市医師会報

平成3年3月号

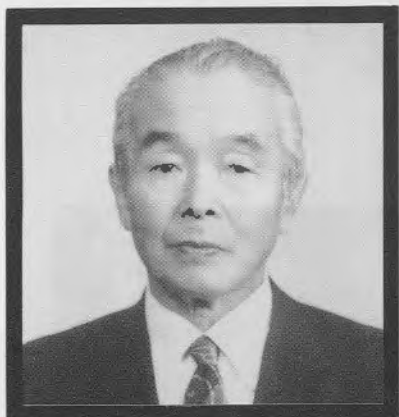
No. 221



石燈籠の道

光市医師会

吉田三彦先生死去



平成3年2月11日
御逝去されました。
謹んで哀悼の意を
表します。

弔 辞

光市医師会長 福本寿雄

漸く春の訪れを感じ、満物が生気にめばえる季節なのに、吉田三彦先生の御逝去の報に接し、ここにお別れの言葉を述べなければならぬことは、我々医師会員一同断腸の思いでございます。御霊前にぬかずき慎んでお別れの言葉を申し上げます。

先生は大正2年に生を受けられ、昭和16年に現在の久留米大学の前身である九州高等医学専門学校を御卒業され、終戦の年に島田市で内科・外科を開業されました。

大らかでやさしい御性格なので住民よりとても慕われておられました。

昭和27年に光精神病院を開業され、当時としては非常に画期的なことございました。先生には先見の明がおりだったと推察致しました。病院も次第に拡張され、昭

和34年には、徳山に現在の泉原病院を新設されました。又先生は昭和28年より母校の久留米大学の精神科で御研究を積まれ「痙攣に於ける小脳皮質の電子顕微鏡学的研究」という御立派な論文で博士号をとられました。又光市医師会に於ても、昭和三十三年より四年間に亘り副会長として御活躍され、医師会の為にお世話下さいました。又医師会以外でも島田小学校のPTA会長や光ユネスコ協会の会長を長きに亘りなされ、皆さんのお世話を熱心になさいました。

又御趣味の方も広く、絵画を楽しまれ、小俱会でも第一人者と言われる程有名でございました。

私が先生とお付き合いさせて頂いたのは、昭和三十六年に私が光に参ってからござ



いまして、ある時、タクシーの中で、先生に精神病のことを質問したら、先生は精神科のベテランであるにも拘らず、「私は精神病のことは良く判らんから、病院に帰って専門家に聞いてみよう」と謙遜して言われたのには、びっくり致しました。それ程先生は大らかで威張ることのない謙虚な方で、いつもニコニコと笑っておられました。

昭和五十年頃であったか、先生はGOT、GPTが高いとかで、好きなお酒もあまり召し上らず、医師会にもあまりお顔をさされなくなりました。しかし三人のお嬢様が夫々御立派なお医者さんと御結婚され御安心されたことと思えます。昭和四十四年頃からは藤村朴先生が大田病院に、吉田延先生が泉原病院に夫々帰ってこられてからは先生ものんびりすることが出来、趣味を楽



しまれ、柳井の方に大きなお家に転居されました。

ここ三～四年前よりお具合が悪いと聞きながら、お見舞にも行かず誠に申訳けなく思っております。又ここ三～四年の間に、光医師会では多くのベテランの先輩方を次々に失いほんとに淋しく思っておりましたのに、今度又吉田先生を失い、我々医師会員として、ほんとうに心細い次第です。しかし光医師会も、先生が医師会の基礎を立派に作って頂いたので、その精神を忘れず又吉田先生のいつもにこやかな笑顔を忘れず、お互いに仲よくやっていきたいと思っております。

どうぞ我々をいつまでも見守ってやって下さい。吉田先生、どうぞやすらかに眠り下さいませ。

合掌



吉田三彦先生を偲びて

丸 岩 巖

私が光医師会に入会したのは、昭和35年の終り頃で、現在の医師会員の中では最古参の部類である。当時の医師会の長老には、中本・中間先生等が居られ、一国一城の大先生ばかりで、初代の梅田・河内山先生等が40才台で、現在の前田俊男先生も50才台で、例会では私が一番若く小さくなって末席を活していた次第で、当時吉田先生も40才台半で若々しさを感じたものであった。吉田先生と私とは年が15才も違い、直接的にお付合する事は少なかったが、義父の河内山良介が旧制徳山中学校で2年先輩でお互いに大変仲が良く病院や家に行き来され、又、石津・河内山両家の姻戚関係で私も遠類関係となり先生に時々御会いする事が多くなり、吉田先生の人と成りを直間接的に現医師会員の中では良く知っている方なので、広報理事よりこの原稿を依頼された訳である。吉田先生を御存知の方も多いと思いますが、光市出身で島田の熊野神社の御一族です。旧制徳山中学校を卒業され親の奨めで医専受験のため上京。受験合格東京住いをされた。所が合格通知は医学校ではなく、美術学校（現在の学芸大学）であり親は医学校に行っているとはばかり思い送金されていたが、先生は知らぬ顔で美術学校で美術の勉強をして居られた。先生は医者になるより美術家になるほうが自分に向いていると考えて居られた様である。医学と美学では一寸差が有り過ぎたので、やがて親御さんに気付かれ連れ戻され、翌年九

州医学専門学校（久留米医専）に入学されたとの話は若き日の吉田先生の有名な話である。美学校に行かれたぐらいだから、先生の美術品に対する鑑賞眼は一流で、義父が良いと思った絵を見せると、チラッと見て「まあまあだな」と問題にされず、吉田先生の集められた美術品は私等素人には解らないが、一級品揃いと聞いている。性格は芸術家タイプで、自由奔放、細かい事と人前で喋る事が大の苦手で、時に祝儀袋に内身が入っていなかったり、数が違っていた事が有ったやに聞いて居る。然し気が向くと熱中される性格で、特に碁と小唄には夢中になられ、碁は棋院より段をもらわれる迄になられた。又、小唄は藝派で、光・徳山で練習されていた。最初40才台頃、稀に内輪の宴会で唄われる事が有り名取りになられた時得意になって唄われたが、私にはネプカ節だなど内心想った。所がその後どう云う手藝か京都祇園の芸者を教える師匠に付き度々京都に通われた。そこを卒業されたのか、その師匠の本家の東京の家元に師事され度々東京に練習発表に行かれた。

私が小唄を始めたのは53才の時からで春日派であるが、先生は春日派の発表会にゲストとして4・5回出演された。その時には、寂と雅の有る声で玄人の唄であった。先生は70才を過ぎてからは東京の家元より師匠を光に呼ばれ、一週間ぐらい滞在してもらい、病員職員と一緒に練習をして居られた。私にも来る様にとの伝言であったが

雑用で行けなかった。先生の最後の小唄を聞いたのは、山口県医師会百周年に行なわれた下関の春帆楼での県医師会小唄会であった。三味線に東京の家元を呼ばれ、その三味線の音で唄われる小唄には枯れが加わり重みを感じた。先生は昭和20年、終戦直後島田市に内科を開業された。来る患者はヒロポン中毒ばかりなので、水木先生と相談され一緒に現在大田病院のある所に光海軍工廠の寮があったので種々苦勞の末、百万円近いお金で買われ光精神病院を作られた。その時が後か解らないが、Y銀行に融資を頼みに行かれ、何だかんだと蹴られH銀行で融資を受けられた。以後その恩を感じ健保、国保等の支払がY銀行に振り込まれるとその日の内にH銀行に再振込されるという大変義理がたい頑固な一面があった。病院が順調に発展し始めた頃、水木先生は辞められ独立して下関に精神病院（現、下関病院）を作られ、そこで吉田先生は一人となり病院の経営、患者の診察、精神科の鑑定医の資格を取るために久留米医大精神科への入局勉強で週に何回かは久留米行と、大変多忙で苦勞されたと聞いている。

私が光に来た頃は入院患者も多くなり月に1回ぐらい久留米の精神科の教授が診察に来られるようになった。ある時教授の来られる日に吉田先生の都合が悪く私に教授の回診について廻ってくれと頼まれた。今と違って暗い精神病棟を戸の鍵を開けながら回診するのに随分時間がかかった。教授は私を精神科医の卵と勘違いされたのであろう。何かと親切に専門的患者的状態を質問され、今さら臨時医師とも云えず冷汗をかきながらしどろもどろの返答した思い出

がある。又、昭和40年代だったか共産党全盛の共産党系組合の強い時期があり、光精神病院にも労働組合が出来、或る日吉田院長に対し他の組合のリーダーも参加して賃上げ、労働条件の改善等をスローガンに、一日先生を座らせその回りを大声でシュブレヒコールを叫び、赤旗を振った事があった。そのお陰で先生は肝臓が悪くなり（凡人だったら胃が悪くなる）数ヵ月間自宅で点滴を受けながら休んで居られたのを見舞いに行った事があった。

その後先生は鋭い美的感覚により美しい絵になる景色の山や土地があれば買われる様になった。それが光や徳山や千葉の土地や山で光の病院が手狭になると徳山の山に徳山精神病院（現、泉原病院）を設立された。又、海外にも美景の土地や山を見つけるつもりで、外遊を計画されたが、体調不調で中止された。昭和50年末には海に面した柳井市伊保の庄に別荘的豪邸を求められ病院へ通勤された。美的物件が高度成長の時代には共に高価になることは先生は予測はされなかつただろうが現実はその様に進む事となった。

先生には3人のお嬢さんが居られ、皆さん御存知の様に皆立派な医師の伴侶として現在2人が病院の院長となられ、その内の一人は養子となり、吉田家の後継者となられ先生としては後顧の憂い無しと云った訳である。

先生には約3年前より脳血管障害で周東病院に入退院を繰返され、田尻先生の息子さんが主治医で大変心配されたと聞いております。

約1年前に面会謝絶の病室に無理に見舞

いに行き、リハビリより帰られ車椅子に乗られた先生に「元気になられたら又小唄の会を開きましょうね」と云うと「うんうん」と嬉しそうに頷いて居られた。これが生前先生に会った最後の日であった。本年2月11日吉日吉田先生死亡の報を聞き私が尊敬し目標の一人にしていた先生を失った悲し

みと人生の空しさで胸いっぱいとなった。この稿には一部フィクションが有るかもしれないが、先生が別世界でこれを読まれたら苦笑しながら御得意の「瓢箪」の小唄でも唄って居られるだろうと思いつつ、深く深く先生の御冥福を御祈り申し上げます。



吉田院長先生の思い出

大田病院総婦長 林 クラコ

初めて私が吉田院長先生にお出会いはしたのは、昭和45年4月大田病院（当時光精神病院）に勤めさせてもらうため面接の時でした。それ以来先生のもとで勤めておりましたが、3・4年前から体調を崩されお宅で療養中、立春もすぎどんよりしたあの日院長先生の訃報に接し、私達職員一同只々深い悲しみに浸るのみでございました。

思えば、院長先生は私等職員にとって、時に慈母となり、時に厳父ともなって親身に御指導下さって、本当に感謝しております。

私が大田病院に勤務し今日に至るまで、院長先生の御恩は筆紙につくし難いところがあります。

なお、入院患者さんの特に長期入院や弱い立場の患者さんに対しては、常に思いやりの姿勢で治療御指導され、生きることのよろこびと楽しみを与えるため、時にはご

自分が運転し光市内や徳山方面へ連れて行かれる等患者さんに対する思いやりを覚えておりますと、院長先生はほんとうにお心の優しいお方だと思いました。患者さんも院長先生を慕っており、院長先生の姿が渡り廊下に見えると、二階の窓から患者さんが院長先生の姿を追うように見つめていることはしばしばであった。

また、反面仕事のこと、患者さんに対する職員の態度等については、特に厳しかったように思いました。

院長先生は、趣味も多才で絵画囲碁特に小唄に於ては県医師会でも先生の右に出られる方はないとのことまで有名でした。

今までお世話になった院長先生の恩返しに若い職員の良き先輩として、今後指導相談相手になることをお約束してペンを置きます

光市と光医師会との協議会

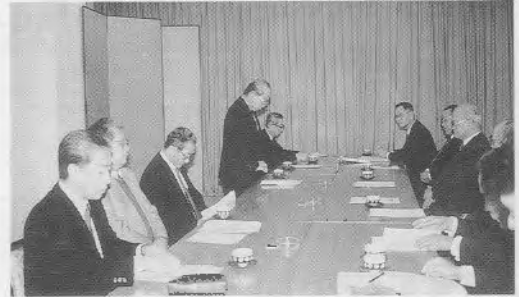
2月25日 午後6時30分～ ホテル松原屋

(出席者)

光市一水木市長、堀川教育長、村谷消防長、伊達福祉事務所長、川崎保健センター所長、
岡村保険年金課長、松本予防衛生係長
光市医師会一福本、富恵、丸岩、梅田、前田、赤崎、吉村

(協議事項)

- 1) 平成3年度医師出務報酬について
- 2) 成人病検診等実績報告について
- 3) 救急活動状況等について
- 4) 休日診療実施状況等について
- 5) その他



休日診療患者調査

(平成2年1月～平成2年12月)(休日71日)

科系	項目	小児科	内科	外科	産婦人科	眼科	耳鼻科	その他 又は不明	合計	1日 平均	救急車 利用
内科系	患者数	680	1,117	112	282	1	2	3	2,197	31人	16回
	患者総数に対する%	(30.9%)	(50.8%)	(5.1%)	(12.8%)	(0.1%)	(0.1%)	(0.2%)	(100%)		
	救急患者数(再掲)	61	57	10	0	1	0	1	130	2人	
	各科の患者数に対する%	(46.9%)	(43.8%)	(7.7%)	—	(0.8%)	—	(0.8%)	(5.9%)		
外科系	患者数	484	399	704	393	75	57	103	2,215	31人	21回
	患者総数に対する%	(21.8%)	(18.0%)	(31.8%)	(17.7%)	(3.4%)	(2.6%)	(4.7%)	(100%)		
	救急患者(再掲)	17	25	87	0	3	2	1	135	2人	
	各科の患者数に対する%	(12.6%)	(18.5%)	(64.5%)	—	(2.2%)	(1.5%)	(0.7%)	(6.1%)		
合計	患者数	1,164	1,516	816	675	76	59	106	4,412	62人	37回
	患者数に対する%	(26.4%)	(34.4%)	(18.5%)	(15.3%)	(1.7%)	(1.3%)	(2.4%)	(100%)		
	救急患者(再掲)	78	82	97	0	4	2	2	265	4人	
	各科の患者数に対する%	(29.4%)	(30.9%)	(36.6%)	(0%)	(1.5%)	(0.8%)	(0.8%)	(6.0%)		

光地区消防組合作成の平成2年救急活動実施状況より抜粋

救急車による傷病者病院搬送(管内・管外)件数

(平成2年1月1日~12月31日)

搬送先		発生場所					計
		光市	大和町	田布施町	熊毛町		
管内	光市内の病医院	846	15	5	109		975
	大和町内の病医院	47	86	133	115		381
	田布施町内の病医院			7			7
	熊毛町内の病医院				16		16
	その他の場所	4					4
計		897	101	145	240		1383
管外	柳井市内の病医院	8	5	50	1		64
	下松市内の病医院	6	1	1	22		30
	徳山市内の病医院	119	15	6	95		235
	平生町内の病医院	3	9	57	1		70
	防府市内の病医院	2	1				3
	岩国市内の病医院		3	2	3		8
	宇部市内の病医院	7	1				10
	その他の市町の病医院	6	1	1	1		9
計		150	39	117	123		429
合計		1047	140	262	363		1812

光市立病院	694	10	5	63	772
大和病院	47	86	133	115	381

備考

1. 出場件数 (1,904)(搬送件数1,812 不搬送件数 81 医師資器材等11)
2. () は、総合計に対する割合 %
3. < > は、各市町合計に対する割合 %

救急車による休日の搬送状況

平成2年1月1日～12月31日

搬送先	種別	急病	交通	その他	計
休日診療病医院		9	6	13	28
その他の病医院		38	8	21	* 67
計		47	14	34	95

※上表その他の病医院への搬送(67)の内訳

搬送先	種別	急病	交通	その他	計
かかりつけ		12		2	14
家族及び医師から 連絡済み		2			2
重症のため入院施設 のある近くの病医院		6	1	4	11
転院搬送				11	11
当直医都合悪い		7	1	2	10
専門外			1		1
その他		11	5	2	18
計		38	8	21	67

平成2年度 成人病検診・予防接種等実施状況

(保健センター作成資料より抜粋)

(基本健康診査の受診者数)

4,788人

(ガン検診の受診者数)

胃ガン検診 子宮ガン検診

1,107人 1,683人

乳ガン検診 肺ガン検診

967人 2,000人

(結核予防受診者数)

ツベルクリン反応 BCG接種

2,123人 861人

(伝染病予防接種者数)

ポリオ生ワクチン 817人

インフルエンザ 3,238人(2回接種者)

日本脳炎 866人(2回接種者)

二種混合 463人(小学6年生)

風診 310人(中学3年女子)

※以下は個別接種で2月末の数

三種混合 1,838人

MMR 280人

麻疹 48人

合衆国異聞

米今義夫

「ところでドクター・コメイマ、あなたたちは毎日、何を食べて暮らしていますかあ。」

全く予想もしなかった不意で突飛なその質問に、その白人のアメリカ人夫妻は日本人の私に何を聞いているのか、何のことを尋ねようとしているのか私は理解できず、私は一瞬キョトンとして目をシロクロさせながら返答に窮してしまった。

それはもうかれこれ十年前のことになるが、日本政府の所用でアメリカ合衆国の太平洋岸に派遣される機会があった。日本にも近く、カナダやアラスカ、それに東洋との交易の窓口でもあるアメリカ合衆国の北西部、その名もノースウエストの中心で日本で言えば神部が横浜を小振りにしたような港湾都市、ワシントン州シアトル市である。

その時私は、屋根付き球場キングドームに大リーグの野球を見に行こうと道を歩いていた。そこへの道を探ねたことがきっかけとなって、やはり野球を見に行こうとしていたそのアメリカ人のアベックと親しくなった。陽気なアメリカ人は、君もキングドームに行くのなら一緒に行こうじゃないか、と誘ってくれたのである。

私が日本政府の派遣でここに来ていることを知ったからか、それとも、たどたどしいながら紳士的な私の英語力に安心したからなのか、野球を見終えたあと、彼らは私らをシアトル市内を一望するおよそ三十階



建ての自分達のアパートに案内してくれた。夕方から始まった野球の試合が終わったあとだというのに窓から見下ろす薄暮のシアトルは美しい。日が沈む十時半までには少し時間がある、白夜なのだ。

聞くと、彼らは夫婦でニューヨークからここに来てまだ間もなく、ワシントン大学で社会学の教鞭をとっているという。陽気なアメリカ人らしく若やいでいるが、やはり礼儀正しく対応して下さっていることが言葉から読み取れる。暫く話しているうちに、彼らは私に尋ねた。

「ところでドクター・コメイマ、あなた達は毎日何を食べて暮らしていますかあ。」余りにも不意で突飛なその質問に、私はその質問の意図が理解できず返答に窮してしまった。暫くして彼らの不意で突飛な質問の意図がわかった。日本人が毎日何を口にして暮らしているのか、日本人はどんな料理を食べているのかを、そのアメリカ人夫妻は東洋から来た私から聞いたかったのである。あまりの突飛な質問に私は答えられず、一瞬キョトンとして、

「日本人は鉄と石の外は何でも食べます、エニシング。」

と、とっさに英語で答えるほかなかった。

アメリカ人のこの何気ない単純な質問は、合衆国東部に住むアメリカ人の日本についての知識の乏しさや日本人観を私に直感させるに十分であった。今では日本や日本人について、アメリカ人の間ではかなり理解が進んだとはいうものの、それでも西海岸から遙か遠く離れた東海岸に住む彼らアメリカ白人の日本についての知識はお粗末極まりないもので、我々日本人が、アメリカは自分たち日本人や日本をよく知っていて、しかも懂れてくれていると、間違っただけなのである、全く不遜にも。それもそのはずであろう、東海岸のアメリカ人の目はそれより更に東のヨーロッパに向いているのだから。更に、日本が地球のどこにあるのかさえ知らない者がアメリカ人の中にはいまだに大勢いることを私達が信じようと信じまいと、それは厳然とした事実であり、そしてその事実がある限り、すべてのアメリカ人が日本人の食生活を熟知していなくともそれはしかたあるまい。だからといって日本人は、その夫妻のようなアメリカ人をその乏しい知識の故に嘲笑できるだろうか。同じことを日本人に聞いてみよう、アメリカ人は毎日何を食べて暮らしていますが、と。果たしてどれくらいの割合の日本人が自信を持って答えることができるだろうか。彼らもおそらく、おそらく一日に三食をとっているに違いない、とすると一週間で二十一食、そして四季。アメリカのことなら何でも知っているはずの日本人でありながら、二十一回の食事の

内容を答えることのできる日本人がはたしてどれだけいるだろうか。

初めのようなことがあってから九年して、私はまた合衆国カリフォルニア州を旅する機会を得た。その時に、お世話になった日系二世に尋ねてみた。

「アメリカ人の主食は何ですか。」と。するとそのアメリカ生まれの陽気な日系人はハタと考え込んでしまった。

「主食、主食、主食ねえ……ええと、英語で何と言うんだらう、さて。そんな単語は英語にはないよ……肉だよ、ニクッ、アメリカ人の主食はね、肉だよ。それにポテトとかキャロットとかを添えて食べるがね。」

陽気で豪放な日系人は誇らしげに答えたが、私の質問に自分がしっかりと答えていないのを自覚しているためか、照れくさそうにも見えた。ところでアメリカ料理ってあるのだろうか、私はいまだ聞いたことがない。それもその筈である、アメリカ合衆国は人種の複合体なのだから。

今度またアメリカ合衆国に行く機会が得られたら、私はアメリカ人と寝食を共にしながらその食生活、合衆国の食文化についてじっくりと観察して来ようと思っている。つぶさに観察してみれば、その結果、私は日米貿易摩擦の真の原因を知ることになるかも知れず、日本での冠動脈疾患の将来について何か知見を得ることになるかも知れないと思う。好奇心が旺盛で図々しい私のことだから、そういう機会をつくるにちがいない、そう遠くないうちに、きっと。

2 月度月間行事・会議等

日	曜	行事・会議	場所	出席者
7	木	周南地域医療対策協議会	徳山環境保健所	丸 岩
8	金	心電図研究会・講演会	光市立病院	17名(光市医師会)
12	火	医学講演会準備打合せ会	光市民ホール	9 名
13	水	定例理事会	光市医師会館 (商工会議所)	6 名
14	木	医学講演会 (学校医・学校保健研修会)	光市民ホール	約 300 名
16~20	土~水	国保審査会	山 口 市	富 恵
17	日	研修バス運行 (県医師会生涯教育セミナー)	山口教育会館	6名(乗車)
19	火	光三師会役員会	武田厚生会館	4名(光市医師会)
21	木	郡市医師会長会議等	県医師会館	富 恵
25	月	光市と光市医師会の協議会	ホテル松原屋	7 名
26	火	周南地域医療対策協議会	徳山丸福ホテル	福 本
26	火	臨時理事会	光市保健センター	9 名
		学術講演会 月例会		31 名
28	木	周南地域救急医療対策協議会	徳山市保健センター	福 本

定例理事会

2月12日(火) 午後7時30分～

光市医師会館(光商工会議所)

(出席者) 福本会長、富恵副会長、丸岩・
近藤・前田・藤原・梅田・吉村各理事
(議 題)

1) 老人保健施設設立に対する意見書

(福本会長)

理事会・月例会・会員アンケート等を検討し意見書を作成し、大田病院へ提示。

2) 校医変更の件 (福本会長)

浅江小 河内山清先生→佃先生

三井小 佃 先生→河村裕先生

やよい幼稚園 佃 先生→河村裕先生

虹ヶ丘幼児学園 守友先生→佃 先生

3) 医学講演会の件 (福本会長)

4) 被爆者健診 (福本会長)

徳山環境保健所より、健診を個別でやって欲しい旨申し出がある。平成4年度よ

り受け入れる方向で検討する。(徳山市は3年度より、下松市は4年度より個別となる)。被爆者は約160人

- 5) 1才半児・3才児健診の件
年次的に受診者が減少して来たため、徳山環境保健所・保健センターより、出務医師を3名を2名にして欲しい旨の要望がある。受託する(横山、大城先生)但し受診者が増加した場合は増員するように申し入れる。
- 6) 平成3年度休日当番医の件(丸岩理事)
- 7) 平成3年度予防接種出務の件
(富恵副会長)
- 8) 来年度医師報酬等市長との話し合いの件
(福本会長)
光市医師会より休日診療患者の調査を議題として提出する。
- 9) 来年度学校教職員健診の件
検査は一括して依頼方式にする。
- 10) その他
(イ)食事付月例会の件
(ロ)前田俊男先生米寿のお祝いの件

光三師会役員会

2月19日(火) 午後0時30分～

於 武田厚生会館

(出席者)

医師会—竹中・福本・渡辺・藤原

歯科医師会—守田・佃

薬剤師会—富原・大戸・松本

(議題)

- 1) 今年度通常総会の日時、場所、内容
- 2) 会則の改正について
- 3) 会計報告その他

臨時理事会

2月26日(火) 午後6時45分～

光市保健センター

(出席者) 福本会長、富恵副会長、丸岩・赤崎・前田・藤原・梅田・近藤吉村各理事

(議題)

医師会事務員について

学術講演会

2月26日(火) 午後7時～

光市保健センター

演題 「消化性潰瘍再発に関する現況」

演者 広島大学助教授 岸本真也先生



月例会

2月26日(火) 午後8時40分～

光市保健センター

議題

- 1) 老人保健施設設立に対する意見書
- 2) 校医変更の件・牛島診療所の件
- 3) 来年度医師報酬等の件

数項目にアップがみられる。

(眼科、耳鼻科のアップ率が少ないのではないかという意見が出た。)

- 4) 来年度休日当番医日程表及予防接種出

務日程表

- 5) 来年度被爆者検診、1才半・3才児健診
- 6) 来年度学校教職員健診の件
- 7) 光三師会の行事予定
 - ・三師会通常総会
 - ・3月14日、午後5時、武田厚生会館
- 8) その他

- (イ)大腸がん検診講習の件
- (ロ)第19回山口県医師会生涯研修セミナーの件
- (ハ)日医FAXニュース
- (ニ)3月レセプト提出日について

心電図研究会・特別講演会 (第32回)

光市・下松医師会合同

2月8日午後7時30分～

光市立病院

演題「心電図の読み方」

講師 徳山中央病院 河野隆任先生

(症例) 76才、♀、主訴一めまい、
 診断一高度房室ブロック
 めまい・徐脈発作を繰り返し、ペースメーカーをうめこんだ症例
 U波が見られ、低Kの状態で発作がおこったのであろう。一般的には脈が40以下の時に積極的な処置が必要である。

(特別講演)

演題「最近のペースメーカーの治療について」

講師 国立岩国病院 種本 和雄先生
〔講演要旨〕

- 1) ペースメーカーの種類
- 2) 永久ペースメーカー(体内うえこみ式)の適応
(疾患別としての適応)



- (イ)徐脈に対して
房室ブロック、洞不全症候群、徐脈性心房細動
- (ロ)頻脈に対するもの
発作性心房細動
心室細動の電気ショック) きれ

(現症としての適応)

(イ)アダムストークス症候群

(ロ)心不全

3) 房室ブロックの適応

(イ)3度房室ブロック

- ・症状のある先天性ブロック) 絶対適
- ・症状のある後天性ブロック) 応
- ・病状のないものは中間の適応

(ロ)2度房室ブロック

(ウ)エンケバハ型)

- 症状があれば適応
- 症状がなければ適応ではない
- (モピッツⅡ型)

症状があれば適応

症状がなければ中間の適応

(ハ)1度のブロックは適応がない

※以上より絶対適応はまず症状がある事が必要条件

4) 洞不全症候群の適応

- (イ)絶対適応は症状のある徐脈、洞徐脈
- (ロ)中間適応は症状のあるもので脈博40～50以下のもの

(イ)症状がない徐脈は適応はない

※脈が少いだけでペースメーカーを入れる
 と言うのは間違いである。

5) 1987年の日本で使用されているペース
 メーカーの統計

VVI 70%

DDP 22.7%

この2つで92.7%を占めている。

しかし最近ではDDPが増えている。

6) 症例の解説

洞不全症候群、徐脈性心房細動、完全房
 室ブロック

7) Rate 応答型ペースメーカー

患者が必要とする脈に合わずペースメー
 カーであり、より生理的に近い。

体動感知型が一番ポピュラーである。

8) ペースメーカーの選択

9) ペースメーカーをいれた人がさける物
 電気メス、放射線治療、MRI等

10) ペースメーカーはどれくらい使用するの
 のがよいか

8~10年くらいが一番よいのではないか

11) ビデオ供覧(ペースメーカーのうえこ
 み) (文責吉村)

医学講演会

(学校医研修会、学校保健研修会)

2月14日(木) 午後1時20分~4時

光市民ホール

〔演題〕

「現代の食生活と子どもの健康管理」

—肥満児対策を中心に—

下関市立病院 永田良隆先生



〔演題〕

「こどもの心の病と親子関係」

新南陽市 原田病院 原田忠明先生



＝ 編集後記 ＝

水がぬるみ、さわやかな風にさそわれて、
 なんとなく戸外に出てみたくなる時候にな
 ってまいりました。

吉田三彦先生が亡くなられ、また一つ光
 市医師会の財産を無くした思いが致します。
 先生のご業績やお人柄によるものでしょう、
 光市民ホールでおこなわれた葬儀には、大

ホールをうめる大勢の参列者がおとずれ、
 別れを惜みました。先生のご冥福をお祈り
 申し上げます。

今月号は丸岩先生、米今先生、大田病院
 林総婦長さんに原稿をいただきました。有
 難うございました。 (吉村)

吉田三彦先生死去



（敬 意）

【敬告】
吉田三彦先生は、平成三年二月十日、
光市で死去いたしました。



平成三年二月十日
光市で死去いたしました。

葬儀は、平成三年二月十日、
光市で執り行われました。

（敬 意）

【敬告】
吉田三彦先生は、平成三年二月十日、

光市で死去いたしました。



先生は、大正七年に生まれました。昭和16
年に現在の久米大学の前身である、
専修大学専門学校を卒業され、昭和20年に
専修大学を卒業された後、大分県に赴き、
大分県立大分大学で勤務されました。昭和30
年に大分県立大分大学を退職され、光市に帰郷
されました。光市に帰郷された後、光市立
第一小学校の教員として勤務されました。昭和
35年に退職された後、光市立第一小学校のPTA
会長として活動されました。先生は、光市に
長く住み、光市に愛着をもち、光市に貢献
されました。先生のご逝去を、光市医師会
として、哀悼の意を表します。先生のご冥福
を祈ります。

先生は、大正七年に生まれました。昭和16
年に現在の久米大学の前身である、
専修大学専門学校を卒業され、昭和20年に
専修大学を卒業された後、大分県に赴き、
大分県立大分大学で勤務されました。昭和30
年に大分県立大分大学を退職され、光市に帰郷
されました。光市に帰郷された後、光市立
第一小学校の教員として勤務されました。昭和
35年に退職された後、光市立第一小学校のPTA
会長として活動されました。先生は、光市に
長く住み、光市に愛着をもち、光市に貢献
されました。先生のご逝去を、光市医師会
として、哀悼の意を表します。先生のご冥福
を祈ります。

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行 者	福 本 寿 雄
編 集 者	広 報 担 当
印 刷 所	光市光井一丁目15番20号 中村印刷株式会社